

## Ⅱ 本年度の地域体験授業の経緯と内容



### 学部の必須科目に地域体験授業を導入

1. 本年度は、学部1年生の必修科目である教養ゼミに地域体験授業を導入した。教養ゼミとは、大学入学後の早い段階で、自主性を重視した知的活動への動機付けを高め、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を育てることを目標にしている。地域体験授業の導入は、学問のおもしろさ、楽しさを体験的に理解できる機会を提供し、参加する学生が地域の持つ魅力や課題を肌で感じ、今後の学習や研究意欲につなげていくことを期待している。同時に、学生・教員・地域がコミュニケーションを促進できる場となることを目指している。

### 地域体験授業の実施状況

2. 地域体験授業の実施には、事前に大学が地域や市町を訪問し、関係者の方々のご意向を伺いながら調整を重ねた。地域関係者には、1年生を対象とした講義と体験作業の実施を依頼させていただいた。その結果、表1の通り、体験授業は7つの市町の9つの地域で実施させていただくことができた。

3. 体験授業のコンセプトには、「地域の皆さまを講師に、地域のお役に立てる体験作業を」と掲げていたが、地域や市町の皆様の暖かいご支援や行き届いたご配慮をいただいた。学生・教職員ともにこの場をお借りして感謝の意を表したい。

## 地域体験授業の実地内容

1. 体験学習の構成は、学生と教職員が現地に行き、初めに訪問する地域の方の講義を受けて事前学習を行い、その後体験作業を行った。地域の方々との協議により、参加するメンバーは1グループ10名前後とし、1つのゼミごとの参加とした。例外として、ファーム・おだは2つのゼミ合同で21名が参加した。加えて、現場体験のある学部学生や大学院生を教務補佐員(ティーチング・アシスタント, TA) 3~4人程度とゼミ担当教員1人、生物生産学部教職員2~3人が同行した。また、後日大学では学生による体験発表会を開き、異なるグループの学生と教職員による情報の共有を図った。体験発表会には、地域の方からの自発的な参加があり、貴重な意見をいただく場となった。実施日は、大学のカリキュラムに合わせて現地実習は6月の各土曜日、体験発表会は7月中旬の水曜日に2回開催した。

以下、各地域で行われた体験授業の内容を紹介する。

### 安芸太田町井仁地域 いにぴちゅ会

2. 安芸太田町の井仁地域では、地域活性化自主活動組織であるいにぴちゅ会にご協力いただき、6月7日に地域体験授業を開催した。井仁地域には、島本ゼミグループ10人が参加した。



いにぴちゅ会は、都市交流事業や都市住民の参加による棚田の景観保全、休耕地の活用などの取組みを行っている。授業では、いにぴちゅ会会長河野司氏に井仁の課題解決と夢の実現に向けてというテーマで講義をしていただいた。体験作業では、棚田にてさつまいもの植え付け作業を行い、その他にもろこ養殖の見学、棚田米を使ったおにぎりづくりを行った。

### 呉市豊町大長

3. 呉市豊町大長地域では、柑橘生産者である大亀孝司氏、大亀美保子氏、末岡和之氏、にご協力いただき、6月7日に地域体験授業を開催した。

大長地域では、都築ゼミグループ10人が参加した。授業では、同3名の方が講師となり、大長みかんの歴史と現状というテーマで講義をしていただいた。体験作業では、大長産のレモンを使ったジャムと化粧水作りを行った。



## 大崎上島町 農事組合法人シトラスかみじま・金原農園

4. 大崎上島町では、金原農園のご協力をいただき、6月14日に地域体験授業を開催した。金原農園には、田辺ゼミグループ10人が参加した。

授業では、柑橘農園経営者である金原邦也氏に大崎上島町の概要と柑橘経営・柑橘流通に関するテーマで講義をしていただいた。体験作業では、高級柑橘「せとか」の摘果作業とレモン栽培の体験を行った。



## 大崎上島町 大崎浦漁業協同組合、食文化海藻塾

5. 大崎上島町では、同日に大崎浦漁協、食文化海藻塾のご協力をいただき、地域体験授業を開催し、富山ゼミグループ11人が参加した。

食文化海藻塾は、磯や浜辺で生き物や海藻の観察、採集体験などを開催しながら、海藻の食文化づくりと新たなマーケットの創造までを考える活動である。授業では、大崎浦漁業協同組合代表理事組合長の奥本英壯氏にマダイの人工ふ化と養殖について、食文化海藻塾塾長道林清隆氏に海藻など水産系食文化づくりと新たなマーケットというテーマで講義をしていただいた。



体験作業では、マダイの餌やり、シーカヤック体験、大串海岸での海藻採集などを行った。

## 世羅町 農事組合法人世羅幸水農園

6. 世羅町では、農事組合法人世羅幸水農園のご協力をいただき、6月21日に地域体験授業を開催した。

世羅幸水農園では、太田ゼミグループ10人が参加した。授業では、組合長理事原田修氏に幸水農園50年の歩みと世羅梨のブランド化について講義をしていただいた。体験作業では、梨の摘果作業を行った。



## 世羅町 農事組合法人世羅大豊農園

7. 世羅町では、同日に農事組合法人世羅大豊農園のご協力をいただいた。

世羅大豊農園には、藤川ゼミグループ 11 人が参加した。授業では、組合長理事祢宜谷全氏に大豊農園の取組み過程と誘客方法に関する講義をしていただいた。体験作業では、梨の摘果、ブドウのジベレリン処理の体験などを行った。



## 三次市 道の駅ゆめランド布野

8. 三次市では、道の駅ゆめランド布野にご協力いただき 6 月 21 日に地域体験授業を開催した。

道の駅ゆめランド布野には、細野ゼミグループ 11 人が参加した。授業では、株式会社布野特産センター（ゆめランド布野）代表取締役廣田幸男氏に道の駅ゆめランド布野の取組みについて講義をしていただいた。体験作業では、特産のアスパラ収穫体験、合鴨農法見学、地元食材を使ったアイスクリーム作り体験を行った。



## 東広島市 農事組合法人ファーム・おだ

9. 東広島市では、農事組合法人ファーム・おだにご協力いただき 6 月 28 日に地域体験授業を開催した。

ファーム・おだには、同日に大塚ゼミグループ 11 人、小櫃ゼミグループ 10 人が参加した。授業では、組合長理事吉弘昌昭氏にファーム・おだにおける集落営農の取組みについて講義をしていただいた。体験作業では、麦作後の水田にて手植えで田植え作業を行った。



## 広島市 いいね大田川隊、大田川漁業協同組合

10. 広島市では、いいね大田川隊、太田川漁業協同組合のご協力をいただき、6月28日に地域体験授業を開催し、山本ゼミグループ10人が参加した。

いいね太田川隊は、漁場の保全と親水空間の形成を目的に太田川支流の吉山川でヨシ刈りを行っている。授業では、いいね太田川隊代表で太田川漁業協同組合代表理事組合長でもある森正記氏に吉山川流域の自然生態系について講義をしていただいた。体験作業では、刈取りされたヨシの搬出作業や吉山川の生き物・生態観察を行った。



11. 最後に、フォーラムの報告者である三木（M1）が教務補佐員として参加させていただいた、三次市の道の駅ゆめランド布野での体験授業の感想などを次のように紹介させていただいた。

株式会社布野特産センター 廣田代表取締役のお話では、ゆめランド布野は地域活性化の先導拠点や地域の情報発信拠点として位置づけられており、現在も地域が抱える課題を乗り越えようと農業体験交流などさまざまな取り組みが行われている。限られた時間ではあったが、アスパラガス収穫といった農業体験や現地の皆様とのふれ合いを通して、地域の魅力にもふれることができ、忘れられない体験となった。

今回の経験を通して、大学生が1年生という早い段階で中山間地域や島しょ部の抱える課題について学べたことは、とても貴重な経験になったと同時に、今後も地域課題について考える上で大きな糧になると感じた。

